

嵐山町は、どのように生き残っていくか、どのようにしたら女性が住みやすいまちづくりを進めることができるでしょうか。

1、女性と高齢者が活動できる経済・福祉と環境が融合した産業と地域おこしをつくりましょう。

嵐山町は、東京に近い・緑があるという利点があります。

東京では、高齢者が生活する環境ではないので地方で受け皿をという提言もあります。

耕作放棄地が増大、空家も増えています。

このような空家を東京で暮らしていた高齢者が、残された時間をその人らしく生き生きと暮らすことができるような拠点にして、中山間地の地域文化をつくっていきましょう。

障害のある人や小さな声しか出せない人が、街中にでていくことができるシステムを作るとき、福祉のまちづくりが進みます。

嵐山町の緑と清流を身近に感じられるまちづくりを進める時、環境と福祉が融合できます。

女性の視点と転入してきた人の視点で子育て・介護を意識したまちづくり・健康づくりを考えると、新しい地域交通の形・新しい産業のアイデアは出てきます。

エネルギー自給率と食料自給率を高めるためにできることは？

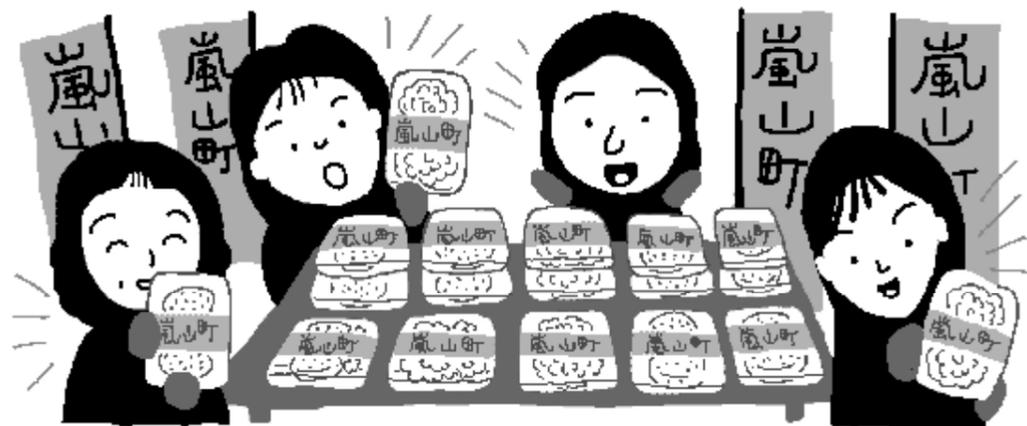
斜面地の多い嵐山町では、太陽光発電の町民発電はできます。

食に対して、味や素材にこだわりを持つとき、嵐山町の独自ブランドの食品が生まれます。

嵐山町の独自ブランドの製品化で、小さな経済をつくりましょう。

女性・市民の視点で、しなやかに新しい里山文化をつくりましょう。

小さいのちを大切に、小さな経済活動からはじまることを大切にします。



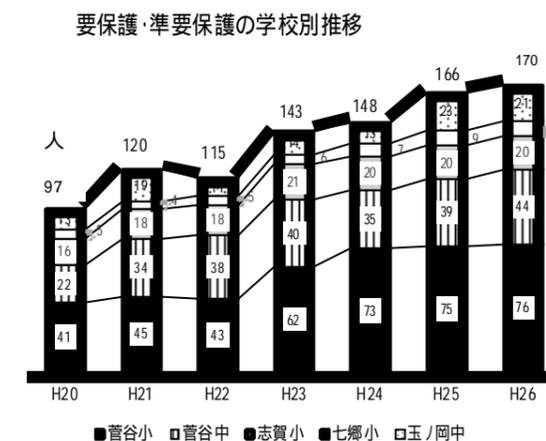
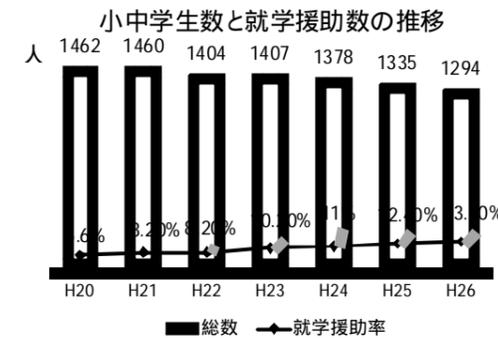
2、IT 化社会です。

多くの人々が IT を活用した情報交換ができるように IT の嵐山町での土台づくりをします。

- ・町民が何をしているか情報発信と意見交換
 - ・お店の情報・サークルの情報
 - ・映画会・コンサートの情報
 - ・子育て・遊び場の情報・ドクターの情報
- IT のまちづくりのスタートです。



3、町内の子どもたちの格差をなくし、子どもに豊かな生活・文化と自然と遊びを！



左のグラフのとおり子どもの貧困は、嵐山町でも増えています。子どもの総人数は減少しています (H20年 1462人 H26年 1294人と 168人減)。一方、貧困な子どもの数は増えています。H20年 97人(6%) H26年 170人(13%)で 73人増。特に菅谷小中学校は 120人(総数 725人)で 16%、貧困の子どもは 6人に 1人の割合です。

非正規労働が増え、1人親家庭・長時間労働で、子どもと会話・世話ができない人もいます。子ども時代に豊かな文化に接してのびのびした遊びと自然を満喫してほしい。地域の大人が子どもと一緒に過ごす機会が増えるといいですね。

乳幼児教育が子どもの将来にプラスになります。嵐山町町立幼稚園は 2年保育ですが、3年保育も働きかけていきます。

保育園では、待機児童を 0にし、両親が安心して働けるように進めていきます。

赤ちゃん時代・保育園・幼稚園・小中学校・児童保育の成長段階に応じて子ども達が、無償か低額で様々な経験を積み重ね幸せな子ども時代を過ごせるように働きかけます。

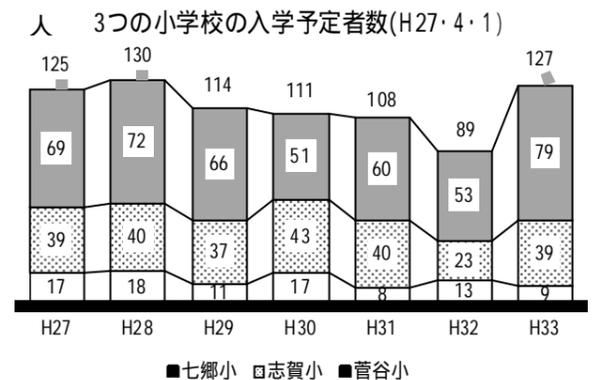
4、学校のあり方を考える時期です。

嵐山町のこどもは 3つの小学校で学習しています。右のグラフは 4月 1日の入学予定者数です。七郷小は 4年後の H31年には入学する子どもは 8人です。

子どもは、地域の活力の源です。地域の保護者と地域と子どもで十分に話し合っ、どのようにしていくか準備する時期です。

小学校 4年生くらいまで、七郷小で学び、小学校高学年は、バスで志賀小に通学する統合も視野にいれませんか。

菅谷小・菅谷中での小中一貫教育と志賀小・七郷小・玉ノ岡中の小中一貫教育、2つのグループでの学校のあり方を考えましょう。



人口減少が進むなか、高齢化率が高い北部地区南部地区では、高齢者と自動車を運転しない人、通学のため地域公共交通は、町負担が大きくても導入すべきです。街中への外出で元気になります。